

令和6年度 第1回運営推進会議 実施報告

書記・報告者：小田 祥平

実施日時：令和6年4月25日（木）13：30～15：00

開催場所：グループホームおりーぶ 1階フロア

参加者 15名

【来賓】 デイサービスセンターわっはっは神明ご家族 1名
グループホームすみれご家族 2名
グループホームおりーぶご家族 1名
神明地区民生委員 2名
北宇治地域包括支援センター 1名
わっはっは神明ボランティア 1名

【職員】 各事業所職員等 合計7名参加

《当日風景》



(実施内容)

① 挨拶

株式会社オールウェーズ 代表 山崎 由美子

② 参加者自己紹介

③ 各事業所からの近況報告

■ デイサービスセンターわっはっは神明

～資料とスライドに沿って説明。(スライドショー含む)～

【質疑応答・感想】

民生委員：ヒヤリハットの説明時に「デイルームから頻繁に出ている」と言っていたのが気になった。外に出たりしたら大変だ。

⇒出られる方は同じ方で頻度としては2～3 か月に1回ほど。その方は一人暮らしの方で自由に暮らしておられたため共同空間であるデイサービスの空間が嫌になられる時がありそのような行動をされると思われる。幸い1階自動ドアの開け方は少し特殊のため1階から外に出ずに終わっている。そのようなことが起こらないよう見守りをしっかり行うとともに、そのような方もゆったり過ごせるようなデイ運営を行っていく。

民生委員：色々なところに行っているのを聞き、羨ましいと思った

⇒いろいろな場所へ外出しているが、外出には『費用』がかかる。ご利用者の負担を考え、なるべく費用が安くなるように計画している。先日行ったいちご狩りでも、デイのご利用者の中には「(昔は1,000円台だったのに2,300円もかかり) いちご狩りこんなに高かったら行かない」と言われ参加されなかった方もおられた。

ただ、「外出＝楽しみ」だけではなく、『外出することで「ここ昔来たことある」「この道路はよく走っていたなど」などの昔の思い出話をご利用者の口から自然と出てくる』、『外出することで季節感を肌で感じる』、『そこでしか見られない資料や見学を通じて興味のある事柄への理解や知識を深める』などの『心身への刺激』が外出の大きな目的でありとても重要な部分であると考えます。

■グループホームすみれ

～資料とスライドに沿って説明。(スライドショー含む)～

【質疑応答・感想】

民生委員：毎回すみれさんの事故報告に『薬の件』が出ているなど感じる。

⇒気をつけてはいるが、他の仕事も同時進行で行う中で、最後薬を飲み切ったところまで確認しきれない部分がある。他の仕事も重要であるがじっくり時間をかけて確認して事故が起こらないようしなければならないと考えている。

特に飲み終わった後に吐き出されるなどしてしまう場面があるため、そのような方へは薬の提供方法を変え飲みやすい状態（粉状にする等）にしたリ服薬方法を変えたりするなど工夫し、まずは『お薬を飲んでもらうこと』に集中して業務を行っていきたい。

ご家族：いつも散歩した際窓越しに本人の姿を見ているが、窓のそばのいちじくの木が夏場茂ると窓をふさいでしまうため、顔が見られない。

私が（本人の顔を見て）安心したいのでチャイム鳴らしても良いか。

職員の迷惑にならないか。

⇒遠慮せずにチャイムを鳴らして欲しい。本人にとっても（玄関まで）歩く理由が出来ることで自然と運動も出来る。

■グループホームおりーぶ

～資料とスライドに沿って説明。(スライドショー含む)～

【質疑応答・感想】

民生委員：稼働率は1人が退所すると一気に減ることがあるから難しいと思う。ただ、おりーぶが地域にだんだん溶け込んで行っているようでとても嬉しい。

⇒近頃は、入口にベンチをおいていると近所の方が座っておられる場面を見ることがあり、大変うれしい限りである。ここ1年程はあまり近所からの苦情も出ていない。先日散歩時に自宅にあったお花を分けていただくこともあった。

散歩に出かけると、近隣の方も「なごやかそうにしているな」と見ておられ、自然とグループホームのことを目にする環境になっているのも一因かと感じる。日々の活動がグループホームへの理解につながっていると思われる。

■代表取締役 山崎より

GH すみれは丸6年経過した。最初入所された9名のうち4名（デイからの移行者3名他から1名）のご入居者が元気に過ごされている。

おりーぶは丸3年。開所時からのご入居者は2名となったが新たに入居された方とともに元気に過ごされている。

特にこの3年はコロナ禍で自由に行動できないことが多々あったが、『毎食手作りの調理』を大変な中実行してきた。そういったことの積み重ねがご利用者の元気に繋がったのではないかと思う。デイの方も昼食が楽しみにされている方が多い。物価高の中、職員が日々頑張ってくれている。

認知症もそれぞれ。100人いれば100通り違うため、その人その人の生き方を探りながら接していく必要がある。最近では70代のまだまだ体力的にお元気な方もおり、時代背景も戦中・戦後と違うため、より一層多種多様なかわり方必要になったと思う。

特に独居の方の入居に関しては事前情報との乖離が多くあり、利用し始めてわかることが多く、報告すると家族の方も驚かれる。一人暮らしの時間が長かった方は『一人で暮らしているとき寂しさや孤独感を感じていたのだろうか』と感じる場面が多々あるが、そういう孤独感がグループホームで一緒に生活することで少しずつ溶けていっていると感じる場面もあり、ご家族より「ここにきて顔色が良くなった」と聞くと嬉しい。

折々の帰宅願望や混乱もあり、出来る限り日中に散歩等の活動を行い太陽の日を浴び夕方から夜にかけては休んでもらえるよう頑張っているが、個々によっていろいろなケースもあり思うようにいかないこともある。

グループホームはご家族との関わりも大切に思っており、日頃からご家族と職員で連絡・相談しながら『ご家族との触れ合いの必要性』も併せて伝えている。

④ 令和6年度介護報酬改定について （報告者：小田 祥平）

この度、令和6年度の介護報酬改定に伴い、4月から基本単価の単位数が上がるのと同時に6月より処遇改善加算の制度が1本化される。処遇改善加算とは、介護職員の人材確保と定着のための賃金アップを目的とした加算である。

制度が変更になるため随時ご利用者の皆様に合意書を各事業所よりお渡ししており、ご理解とご協力を賜りたい。

⑤ 参加者の感想

※上記『各事業所からの近況報告』で出た感想以外

北宇治包括：今この地域の高齢者人口は7,200人ほどいる。昨今『共生社会』といわれ宇治市も頑張っている中、まずは『日本人の半分は認知症になる』という『近さ』を感じる大切である。そういう風に認知症を身近に感じていただくためにも、現在行われているように散歩等でグループホームの方が地域に出かける活動はとても大切。他の事業所もやって欲しいがコロナがあったためあまり出来ていないのが現状。日々当たり前のように行えているのがすごいと思う。

わっはっは神明ボランティア：ボランティアに来ると、みんな優しいしとても居心地がいい。

今後も未永くボランティアを続けていきたい。

⇒毎回各事業所あてに毎月の共同制作（貼り絵）の下絵を作っていた
だき、とても感謝している。